

SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

事業者名: 株式会社 建設プロジェクトセンター

基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具合的な取組みを記載のうえ、提出してください。

(様式第2号)

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17																	
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内でも共有、実践している。	●		・経営理念を策定し、社員及びスタッフに周知している ・中長期事業計画を掲げ、社員に周知している ・年度初めに、事業計画を見直し、社員及びスタッフに周知している											8	9													17									
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		・コンプライアンスに関する社内研修を実施し、周知を図っている																									16									
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		・会社として公正な取引に努め、全従業員に向け、その重要性を発信している															10										16									
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		・社内に品質管理室を設置し、段階的な照査体制を徹底している ・利害関係者とのコミュニケーションを図り、その先にある地域社会への貢献を確かなものにするため、全従業員へ周知し理解を深めるため、部署毎の連携を図っている																									16									
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		・知的財産に関する特許、商標、著作権等に関する抵触、侵害について周知徹底している												8.2 8.3	9																					
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		・個人情報の漏洩防止策として、管理者を置き適切に管理している ・情報管理者を置き、情報漏洩防止を徹底している ・外部へにメールに関しては、パスワード設定を標準化している																										16								
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		・利害関係者との適切なコミュニケーションを図ることにより、質の高い成果を納め、優良業務表彰や感謝状等を介し、当社の活動の有効性を確実にしている																									16	17								
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。	●														5			8		10			12	13	14	15	16	17									
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。	●		・令和2年5月29日に「事業継続力強化計画」の認定済み ・自然災害時に、全従業員の生命と最適な職場環境を守るための対応手順を作成し周知している																	9		11						13.1	16	17							
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	●		・月1回管理職による事業推進会議を実施している ・後継者の指導・育成に積極的に取り組んでいる																8	9									17								
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。	●															1	2										5		8				12	13	14	15	16

SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

事業者名: 株式会社 建設プロジェクトセンター

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的取組みを記載のうえ、提出してください。

(様式第2号)

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		・就業規則(第62・63・64条)により、各種ハラスメント対策を講じている ・社内に相談及び苦情処理の相談窓口を備えている				4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5				8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		・就業規則(第8章)により安全衛生措置を講じている ・各業務毎に安全大会・安全パトロールを実施している			3						8.8									
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		・働き方改革関連法など、関係法令の内容を理解し、従業員及びスタッフの公平な待遇を実践している					5.5				8.5		10.2 10.3							
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		・働き方改革=楽しみ方改革として社内部活動を通じた心身の豊かさの推進を行っている (食育部・野外活動部・体育部・歴史探索部・茶道部) ・社内農園活動で自然環境、農業と触れ合う機会を提供している ・半日単位で使用できる有給休暇制度の設置や有給休暇の取得奨励、テレワークの導入、育児、ボランティア活動に積極的に参画できるなどの環境を整えている			3		5.5				8.5 8.8		10.3							
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		・研修体制の整備や必要経費を会社負担により実施している →月に1度のOJT活動として社内座学を実施している ・社外研修や各種資格の取得を奨励している ・良好な職場環境の醸成や部下の能力開発など、適切なマネジメントを実施できる管理職を育成するための教育を実施している 月に1度管理職の研修や意見交換を実施している				4	5.5				8	9								
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上に取り組んでいる。	●		・社内農園活動を通じ、自然と触れ合う機会を提供することで、心身の豊かさを奨励している ・定期的健康診断の経費を負担している ・新型コロナウイルス等の感染症における、社内感染予防マニュアル等を作成し、適宜注意喚起を行っている			3						8									17
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		・多様な人材(社員・スタッフ問わず)が活躍できる社内制度としてブレインストーミング方式での意見交換を実施している ・多様な人材の活動状況を、社外誌「晴耕雨読」(年4回配布)やホームページ、SNSなどで積極的に配信している ・育児や介護と両立できる環境を提供している ・ベテラン技術者(高齢社)からの技術の伝承として、若手社員からの要望に応じた社内勉強会を実施している				4.4	5.1 5.5				8.5		10.2 10.3							16.7
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。	●		・在宅勤務(テレワーク)を導入している ・Web会議を積極的に導入している ・新型コロナウイルスに対する【社内マニュアル】を策定し、従業員へ適宜周知徹底している ・学生向けの会社説明会をZoomにより実施している			3						8	9.1		11	12					
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。	●		・業務にUAV、3DレーザーなどのIT機器を導入し、業務の効率化を図っている ・社内会議にタブレットを導入し、ペーパーレス化を実践している ・社内カタログ等をHPにデジタル化し、掲載している									8	9.1		11	12					
	21	【プライト企業】 ・プライト企業に認定されている。	●		・2019年10月17日 プライト企業認定(認定番号:19029)			3	4					8	9			12					

SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

事業者名: 株式会社 建設プロジェクトセンター

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的取組みを記載のうえ、提出してください。

(様式第2号)

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・産廃業者と契約し、適切な処理に取り組んでいる ・2021年10月よりプラスチックの分別を開始した ・マイカップやマイボトルを利用し、プラスチックの削減を実施している			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1				
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・平成29年10月に社内の照明を全てLEDに変更し、昼休みに照明を消灯するなど、消費電力の抑制を図っている ・サーキュレータと冷房を効率的に使用し、消費電力の抑制を図っている ・【予定】令和4年10月までに熊本県が提供する「簡易計算シート」により使用量を算出し把握する。								7.3					13						
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		・事業所の照明や空調の節電に取り組んでおり、【予定】R4年10月までに熊本県が提供する「簡易計算シート」によりCO2排出量を算出する。			2.4						7.2 7.3 7.a			12.4	13	14	15				
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・現場作業時におけるゴミの持ち帰りを社員に徹底させている ・建設コンサルタント業として設計時に、緑地や水辺の整備や、生物の生息、生育地の創出を念頭においている							6.6								14	15			
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・ペーパーレス化、裏紙の利用を促進している ・環境に配慮した材料、製品の利用を促進している ・可燃、不燃、紙類、PET、ビン缶、プラ、段ボールの分別を徹底している											9.4		12.2 12.4 12.5		14.1	15			
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・事業所内の設備に節水機械(トイレ)を使用している			2.4				6.1 6.3 6.4 6.6					11.5			14.1 14.2 14.3	15			17
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・環境に配慮した製品の購入に取り組んでいる											9.4		12.4 12.5	13	14	15			
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●		・会社行事及び昼食などの食べ残し0を実施している ・社内部活動(食育部)の活動として、自社農園等で収穫した野菜の廃棄0を実践している	1	2					6.4						12.3		14	15			17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●		・自社農園で野菜等の栽培を行っている												11.6 11.7		13.1 13.3		15			17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。	●											7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3				
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・「伐って、使って、植えて、育てる」の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●									6					9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15	
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●									6.1 6.3 6.6						11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●															12.2 12.5		14				
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●													9.4		11.2		13.1 13.3				
36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●												7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13				17.2

SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

事業者名: 株式会社 建設プロジェクトセンター

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的取組みを記載のうえ、提出してください。

(様式第2号)

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		・品質管理者により、業務の節目毎に照査・点検を実施している ・技術力を向上し、安心、安全な成果を提供するため、月1回のOJTを実施しており、ベテラン技術者の知識の継承に取り組んでいる			3.9						9			12.4							
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特設せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		・受託業務を通じて、ユニバーサルデザインを考慮した設計に取り組んでいる									9.1	10	11.7							17	
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。		●				2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17	
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。		●	・自社の壁面、天井等は木材を多く使用し、壁面は漆喰を使用している。木材を利用する効果として、癒し効果があり、健康的で快適な空間を提供している								7				12.2	13.1			15			
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に努めている。		●				2.3 2.4							8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15		17
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		・年に1回、県主催の防災活動【砂防ボランティア調査】に参加している ・熊本四街道連絡協議会の事務局として、年1回シンポジウムを開催し、九州の各歴史街道の活動報告を行っている ・災害時には所属する協会等を通じて寄付活動を行っている	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		・令和2年5月29日に「事業継続力強化計画」の認定済み ・自然災害時に、全従業員の生命と最適な職場環境を守るための対応手順を作成し周知している ・平成28年熊本地震の経験から、災害時の避難食や防災グッズの備蓄等を行っている				4							11.5		13.1			16			
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。		●			1.5		3	4						10.2	11.5		13.1			16	17	
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。		●											9		11	12	13.1					
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。		●	・全社員に対しSDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている ・社内でSDGsに関する研修を実施し、全社員及びスタッフにSDGsへの意識が浸透していくよう働きかけを継続して実施する	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	48	【インターンシップ等の受入れ】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。		●	・新規卒業者の採用に向け、インターンシップを積極的に受け入れている ・地域の次世代を担う人材(学生)に向けた校内ハローワークへの参加や中学校の職場体験学生の受入を行っている				4					8.6		10.2							17	
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。		●	・学校側や商工会と連携し、校内ハローワークへの参加を行っている ・事業の完成時に地元小学生に向けた、現場説明会を実施している ・学生や社会人を対象にした就職関連イベントに積極的に参加し優秀な人材の確保に取り組んでいる ・地元の学生を積極的に雇用している				4.4				8.5 8.6										17	
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。		●				2		4.3 4.4 4.5				8.6		10.2		12	13	14	15		17	

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的取組みを記載のうえ、提出してください。